

12月の県内景況は、前月に比べ好転。 「売上高」「販売価格」等、6項目の DI値が改善した。

情報連絡員による平成28年12月の県内中小企業の景況は、業界全体として「好況」は19.6%（前月比+3.5）となっており、「横這い」は29.4%（同-6.3）、「低調」とするところが51.0%（同-2.8）、業界全体の「景況感DI」は-31.4%（同+0.7）となっています。

1. 全産業の項目別前年同月比DI値の動き

◇「売上高」「販売価格」「取引条件」「収益状況」「資金繰り」「操業度」の6項目が前月と比較して好転しています。

2. 業種別の「業界の景況」

◇前年同月と比較して、木材木製品製造業、卸売業が「快晴」。食料品製造業、繊維製品製造業、鉄工機械製造業、建設業が「曇り」または「薄曇」、その他の業種は「大雨」または「雨」となっています。

◇来月の見通しは、好転、やや好転の見込みとの回答が、9.8%（前月比-9.9）と減少しております（好転の回答1件、やや好転の回答4件）（製造業1、非製造業4）。一方、変わらないが、49.0%（前月比+2.6）と増加しております。やや悪化、悪化の見込みは、41.2%（前月比-7.3）と減少しております。

平成28年12月の景況について、情報連絡員からの報告は以下のとおりです。（回収率85.0%）

項目別DI 業種区分	売上高		販売価格		収益状況		資金繰り		雇用人員		業界の景況	
	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比
食料品製造	42.86	0.00	0.00	0.00	28.57	0.00	0.00	0.00	0.00	-42.86	28.57	-14.29
繊維製品製造	50.00	-100.00	0.00	0.00	50.00	-50.00	0.00	-50.00	0.00	-50.00	50.00	0.00
木材木製品製造	50.00	50.00	50.00	50.00	25.00	25.00	25.00	25.00	0.00	25.00	50.00	50.00
鉄工機械製造	-25.00	-75.00	0.00	0.00	0.00	-25.00	-25.00	-25.00	0.00	-25.00	0.00	0.00
その他の製造	-80.00	-20.00	0.00	0.00	-40.00	-40.00	-40.00	-20.00	-20.00	0.00	-20.00	-20.00
卸売業	100.00	0.00	0.00	0.00	50.00	50.00	0.00	0.00	0.00	0.00	50.00	50.00
小売業	-11.11	0.00	22.22	33.33	-66.67	-44.44	-11.11	-22.22	-11.11	-11.11	-44.44	-66.67
商店街	16.67	-16.67	0.00	0.00	0.00	-33.33	0.00	-33.33	0.00	0.00	-16.67	-50.00
サービス業	100.00	25.00	75.00	25.00	50.00	25.00	0.00	0.00	-25.00	-25.00	50.00	-50.00
建設業	-40.00	-40.00	0.00	0.00	-20.00	-20.00	-20.00	-20.00	-20.00	-20.00	-20.00	-20.00
運輸業	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	-33.33	-33.33	-33.33	-66.67	-33.33	-33.33

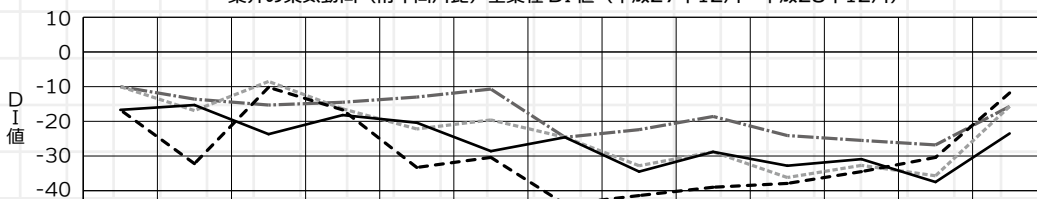
天気図の見方

各景況項目について「増加」（または「好転」）業種割合から「減少」（または「悪化」）業種割合を差し引いた値(D・I値)をもとに作成。その基準は下表のとおりである。

D・I値基準値

- 快晴 30以上
- はれ 10~30未満
- うすぐもり -10~10未満
- くもり -30~-10未満
- 雨 -50~-30未満
- 大雨 -50未満

業界の景気動向（前年同月比）全業種DI値（平成27年12月～平成28年12月）



— 業界の景況
- - - 売上高
- · - · - 収益状況
- - - 資金繰り

	平成27年12月	平成28年1月	平成28年2月	平成28年3月	平成28年4月	平成28年5月	平成28年6月	平成28年7月	平成28年8月	平成28年9月	平成28年10月	平成28年11月	平成28年12月
業界の景況	-16.7	-15.3	-23.7	-18.2	-20.4	-28.6	-24.6	-34.5	-28.8	-32.8	-30.9	-37.5	-23.5
売上高	-16.7	-32.2	-10.2	-16.7	-33.3	-30.4	-43.9	-41.4	-39.0	-37.9	-34.5	-30.4	-11.8
収益状況	-10.0	-16.9	-8.5	-16.4	-22.2	-19.6	-24.6	-32.8	-28.8	-36.2	-32.7	-35.7	-15.7
資金繰り	-10.0	-13.6	-15.3	-14.5	-13.0	-10.7	-24.6	-22.4	-18.6	-24.1	-25.5	-26.8	-15.7

食料品製造業

<漬物>

12月は年間で一番売上が上がる月である。しかし、今年は仕入原料が高く、利益が出にくい状況が続いている。

<味噌醤油>

味噌醤油の出荷量は、全国レベルで見ると昨年比共に横這い。しかし、当県においては、味噌は昨年比で4.4%、醤油は2.3%の出荷減と依然として厳しい状況が続いている。原発事故から5年9ヶ月、県外の大手取引先の回復はない。

<菓子>

餡の購入先が12月で営業を終了した。このような傾向は今後も続くと思われる。

<酒造>

日本酒が需要期に入り、出荷数が増えてきた。吟醸、純米吟醸は伸びているが、純米酒が落ちてきている。純米酒から純米吟醸へと流れが変わってきている感じがする。これからが、大吟醸の仕込みとなり、蔵元が一番神経の高まる時期に突入する。

<食品団地>

今月も原油価格が少しずつ上がり始めている。消費についても停滞気味は変わらない状況である。今後も原油価格の高騰等、収益に影響が出てくる見通しで難しい状況が続いている。雇用においてもまだ改善が見られず、厳しい状況である。

縫製品・同製品製造業

<ニット>

部分的に好況な会員もいるが、全体としては低調である。百貨店の今期秋冬シーズンの売上が低調のため、来期の受注に影響が懸念される。

<縫製品>

暖冬の影響により小売店の販売高が減少。来月から生産が本格化する春夏物の受注が苦戦傾向にある。

木材・木製品製造業

<製材業>

新築住宅着工が堅調なことから、製材工場は特に県外からの急に増えた注文に対応するためフル稼働を続けている。一方丸太の出材は順調であり、工場の旺盛な需要を支えているが価格は上昇している。

<外材輸入>

新設住宅着工数は高水準で推移し、製材品の荷動きは順調であり忙しい年末となっている。

ただ、11月以降急激な為替円安に伴い今後の輸入コストの上昇が心配である。

紙・紙加工品

<紙器・段ボール箱>

紙器、段ボール箱業界において、貼箱企業は小規模業者が圧倒的に多い。後継者難で事業継承ができずに自主閉鎖してしまう企業が多いのも事実。貼箱業界は感覚的には縮小していると思われる。特に貼箱業界が価格競争の渦中に埋没してしまうことも十分想定できる。このままいくとさらに業界はシュリンクしてしまうのか不安が残る。

窯業・土石製品製造業

<陶磁器>

客の入り込みが少ない。

<碎石>

(県北地区)

1. 当月売上数量 前月比 約2%減
2. " 昨年同月比 約30%減
3. 本年度売上数量 昨年対比 約29%減
4. 原因・現状

公共事業等への出荷が中止となり、住宅除染工事が終了となったため、昨年対比で約29%減となった。

<生コン>

平成28年12月の組合員生コン出荷数量は、164,346m³と対前年同月比9.9%減。出荷数量の内訳は、民需が対前年同月比9.8%減、官公需が18.8%減であった。

○民需の動向

対前年同月比 9.8%減

対前年同月比増加地区

<いわき地区> 100% (前月同様) ショッピングモール新設工事、小名浜SS (セメント基地) 建設工事等

<相双地区> 8.2%増 第一原発固体廃棄物貯蔵庫、ロックウール生産工場建設工事等

<会津地区> 22.7%増 マンション、老人福祉施設建設工事等

対前年同月比減少地区

<県北地区> 1.0%減 市内総合病院新築工事、二本松東北江南第6期工場増築工事等

<県中地区> 27.7%減 郡山駅東口改築工事、郡山スマートインター工事等

<白河地区> 49.6%減 工場倉庫増築工事等

○官公需の動向

対前年同月比 18.8%減

対前年同月比増加地区

<白河地区> 7.1%増 ひらた清風中体育館建設、簡易舗装道路工事等

<会津地区> 29.9%増 河東学園中学校新築工事、喜多方市斎場新築工事等

対前年同月比減少地区

<県北地区> 13.2%減 県警本部庁舎新築工事、東北中央道高架橋工事等

<県中地区> 2.0%減 西部第一工場団地造成工事、ふくしま医療機器開発支援センター整備工事等

<いわき地区> 28.3%減 港湾災害復旧、市内共立病院新築工事等

<相双地区> 26.2%減 廃炉国際共同研究センター建設、海岸線復旧、漁港復旧工事等

鉄鋼・金属・一般機械製造業

<鉄工工業>

地元の鉄骨工事は少ないが、関東地区の仕事も入っている。

<各種プラント機器>

当組合のプラント設備関連業界は、売上高が前月比で39%減となり、前年同月比に於いても70%減と大きな減少に転じ、先月に続く低調な取引となった。

累計でも前年比38%減と回復の兆しが見えない状

態が続いている状況である。

卸売業

<再生資源>

古紙の市中回収は、年末の特需で増加はしているものの、発生量が減少しており大幅増には至らなかった。

鉄スクラップ価格は高値で推移し、旧正月までは長く期待している。しかし、アメリカの大統領就任以降、為替の動きによっては鉄スクラップ市況に影響がでると思われる。

<卸売業>

(県北地区)

当組合の販売品目は米穀のみなので、平成27年秋に収穫した米穀を主に秋から初夏にかけ販売している。このため、夏から秋の米穀の収穫時期までは販売数量が激減する。なお、米穀の販売単価は昨年より上がり、売上高は増えた。

小売業

<共同店舗>

(Oショッピングセンター)

帰省客が年々戻りつつあり売上の伸びに繋がった。売上が伸びない理由の一つに労働者の確保が難しいことが挙げられている。

(Nショッピングセンター)

2月に同敷地内でツルハドラッグが開店する。アスク全体としては良い流れだが、各テナントにはマイナス要因ともなる為、開店後の各テナントの販売動向を見守る必要がある。

<石油>

12月、為替の円安、更にOPEC減産合意により原油価格が上昇し、元売各社の仕切価格も大幅に上昇した。この為、小売価格も一段と上昇している。

<水産物>

年末商戦に期待していたが、全体的に仕入値が高く販売価格に転嫁されず、売上、粗利が苦戦。刺身類は健闘した。

<青果>

前月から引き続き、取扱高は増加したが、野菜単価の高騰であり、決して量が増加したわけではない。年々、消費者の小売店離れが見られ、年末の取扱にも影響がでている。また、雪不足の影響で来月からの野菜単価にも影響が出るものと見ている。

<家電>

全体的に売上低調。個店でも低調。個店チラシ価格の見直しが必要。

商店街

<福島市>

師走感が薄く、歳末商戦も空回りしていたように感じる。

<郡山市>

今月は歳末セールが好調で、商店街は予想以上の賑わいがあった。駐車場の入り込みも良く、1月もこのまま続いてくれればと思う。一方、商店街の悩みであるカラスは秋ごろからまた増え始め、鷹匠による駆除を再度行った。しかし、数は減ってきているようだが春の時のような大きな効果はなかなか上がらないようである。1月は状況を見てより効果がある方法も考慮しながら行おうかと考えている。

<南相馬市>

年末年始は、市商連主催の三角スピードクジがまずまずの人気だった。また、栄町の恒例「ナイトばぎーる」も25年間継続して300回目を迎え、記念行事を行った。大抽選会では長い行列が続き、終日栄町エリアが賑わいを見せた。お正月初売は、商店街は低調、量販店は大繁盛という結果だった。

<会津若松市>

商店街で歳末企画を行い、例年通りの人出はあったが、宣伝不足でまだまだお客様に浸透していないのを感じた。反省点を見つけて来年以降も継続していきたい。昨年同様、降雪は少なく冬物への購買力が上がらなかった様に思う。またセール前の買い控えも感じた。

<いわき市>

12月は一週ごとに暖かさと寒さが入れ替わる月で、天候に人出が左右される商店街は一喜一憂。暖かい日が続くと冬物の買い物で来街者が増えるが、寒い日が続くと買い物で歩く方は少ない。クリスマスも三連休で来街者が少なく、駅前を中心としたイベントが開催されたが外れ、商店街へは恩恵もなかった。ただ12月の週末は忘年会での人出が多く、週末は駐車場をさがす車で渋滞。飲食も11月が苦戦だったのが、12月で大きく取り戻したようだ。

サービス業

<旅館業>

(土湯温泉)

東京オリンピックまでに外国人誘客目標4000万人に向け、日本全国が日本版DMOに取り組んでいる。少子高齢化が進む中で、日本の人口減少は間違いなく訪れ、国内GDPは低下することはあっても伸びることはない。このような中で、外国人を取り込んだ観光業は、日本の基幹となっていくので、その動きに乗り遅れないためにもインバウンド対策を着実にすすめていきたいと考えている。交通機関の多言語化、Wi-Fi環境の充実化等をすすめてほしいものである。

<理容業>

全体的に暖かく近年にない天候に恵まれた12月だったが、思ったより売上は伸びなかった。どの方部に聞いても暮れの忙しさはなかったとのことだった。以前のように調髪しきつぱりした気持ちで新年を迎える風習は薄れていくようだった。常にお客様は自分のライフスタイルに合わせて調髪していることだろう。

暮れは忙しいということは昔話になりそうだ。

<美容業>

新たな年に向けて、気持ちよく年越しを迎えたいという思いから髪の手入れで美容界は一年で最も忙しい時期。今年は気温の低い日がなく、前半は好調な消費者の客足でしたが思ったほど売上げが伸びなかった。やはり消費者の紐が固かったのは次期アメリカ大統領のトランプ景気がまだ県内には届いていないからか。

建設業

<建設業>

(県南地区)

建築工事が大幅に減少しており、新たな計画も少なく、非常に見通しが悪い。土木工事も全体的に低調で、売上げが急激に減少している。除染は住宅が完了し、

道路、森林、水路などの除染が発注されているが、全体的に行きわたるほどの物件数ではない。

<管工事>

前月比で給水装置工事申請が減少し排水設備申請は増加した。一方、前年同月対比では、給水装置工事申請が増加し排水設備申請は減少している。

<専門工事>

昨年に比べれば冬らしい年の瀬となったものの、やはり積雪は少なく、気温もさほど低くならないまま一年の終わりを迎えたと感じる。ばたばたとした感じもなく、どちらかと言えば平穏無事に現場も収束し、業界的に極端に大きな騒ぎもなかったのではないだろうか。一方で、新しい年に向けトランプ新政権に向けての期待感がささやかれる中、これと言って具体的な提案もなく、東京オリンピックに向けても『お足』と言った部分で足並みがそろわないと言う中途半端さを露呈した状況になっているように感じる。新しい年に向け、

新しい抱負を抱きたいものではあるが、行政のトップそのものが言ったことを三歩で忘れるようなことにならずに、大きく飛躍する歳になって欲しいと願うばかりである。

運輸業

<トラック団地>

(県北地区)

12月中旬から燃料価格が上昇している。当面は高止まりで推移すると思われるため、収益面への影響もでてくるとされる。

(県中地区)

11月は前年同月比で輸送量が大きく伸びた。

<ハイヤータクシー>

低調である。天候が穏やかな日が多かったことが一因か。